



どうする英語教育

小学校「教科化」後の英語教育を問う

6月8日(土)
14:00~16:30
オンライン (Zoom)

★参加無料 希望者は

前日の午前中までに下記フォームへ

<https://forms.gle/g9AZGnVFLdc1PQ6N7>

メール(office@min-ken.org)
の場合は、氏名・フリガナ・メール
アドレス・所属を記入。前日
に案内と資料を送ります。



小学校英語の教科化をはじめ学校英語の早期化・高度化によって、学校の英語教育が深刻な事態に陥っている。最近の全国学力テストでは、子どもたちの「英語力」低下が鮮明になると同時に「英語が嫌い」が急増している。一方で危機感を持った親たちが民間の教育産業に取り込まれることで、経済力による学力格差の拡大が進んでいる。また東京都による高校入試スピーキングテストの強行は多くの受験生に不安や混乱をもたらしている。

そこで、今回のフォーラムでは、英語教育改革の現状と課題、背景を明らかにするとともに、それとどう対峙し、どう英語教育を見直していくのか、現場の視点からともに議論していきたい。

報告

◆ 小学校英語の教科化のねらいと現状

瀧口 優 (新英語教育研究会副会長・白梅学園短期大学名誉教授)

◆ 小中接続の問題点・中1英語の困難

羽野祐司 (大分県中津市立緑ヶ丘中学校)

◆ 「英語が苦手」から「少し好き」へ——ことばを学ぶ楽しさを取り戻す授業を

柏村みね子 (文京学院大学、新英語教育研究会)

全体討論